

2019年6月13日 さいたま市民会館うらわにて JR東労組本部 第38回定期大会報告 その2

大会宣言

JR 東労組は 6 月 13 日、さいたま市民会館うらわに於いて、「JR 東労組の存亡を掛け、未来を切り拓くために、12 地本が団結し、全組合員と共に組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう!」「スト権に頼らない、組合員と共に歩む JR 東労組をつくろう!」のスローガンのもと第 38 回定期大会を開催し、職場活動を源泉とした JR 東労組運動を展開し、情勢認識を一致させ、組合員と共に歩んでいく方針を決定した。全地本でこのスローガンを掲げ、これまで築き上げてきた組織を強化・拡大させる運動を前進させよう。

19 春闘は 18 春闘の大敗北総括を職場から議論し、闘争 1 号の議論経過を正しく認識して教訓を掴み出してきたことから、昨年を上回る回答を生み出すことができた。だからこそ、「第三者機関依存」ではなく、「スト権への幻想」を抱くことでもなく、職場からのたたかいを通じて「自らの力」でたたかうことで新生 JR 東労組運動をつくり上げなければならない。

新生 JR 東労組運動を前進させるためには、組合員に信頼される組織にならないといけない。だからこそ、嘘、偽り、誤魔化しなく、わかりやすく、納得するたたかいをつくり上げていく。JR 東労組は組織と組合員を守るため、いかなる組織破壊者・行為も許さず、断固たたかっていく。

「変革 2027」を踏まえた「新たなジョブローテーションの実施について」を始めとする各種施策が矢継ぎ早に打ち出されているが、反対のみを叫ぶのではなく、施策を担う組合員と共に会社施策に向き合い、働く者のための施策をつくり出していくスタンスで臨んでいく。組合員の雇用と利益を守るため、建前議論で組合員を振り回すことなく、組合員との本音の議論を重視し、組織の強化・拡大へと結実させていこう。

我々労働者を取り巻く環境は、少子高齢化、産業構造の変化などに晒されている。この現実に向き合わなければ、私たちの労働条件は守られない。情勢分析を誤った 18 春闘の教訓から、私たちを取り巻く環境の劇的変化に対応するため、組合員と情勢の認識を深めて歩んでいかなければならない。

安倍政権は政府の都合に合わせて、いかに国民を騙すかと躍起になっている。働き方改革関連法の施行、厚労省や防衛省のデータ改ざん、さらには民意を無視した辺野古新基地建設埋め立て強行など、国民不在も甚だしい状況である。だからこそ、平和・人権・民主主義を守るため、来たる参議院選挙は JR 東労組の方針・政策を支持する候補者の勝利を目指そう。

JR 東労組は結成当時から、健全な経営基盤を築き会社が発展することによって組合員と家族の幸福を実現するために、あくまで平和裡に労使の議論をおこなってきた。組合員の利益を第一義とし、労働条件の維持・改善をはかるため、JR 東労組運動を 32 年に亘って積み重ねてきた。その原点に立ち返り、職場活動を源泉とした JR 東労組運動を展開し、労働組合らしく組合員と共に歩を進め、難局を切り拓いていこう。

以上宣言する。

2019 年 6 月 13 日

東日本旅客鉄道労働組合
第 38 回定期大会